

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101727		
法人名	社会福祉法人 義風会		
事業所名	グループホーム桃丘 (ピーチ)		
所在地	岡山市北区芳賀2390		
自己評価作成日	令和 4年 1月 14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101727-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101727-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4年 2月 4日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H27. 3月に開設した施設になります。建物は平屋で広い駐車場、畑もありゆったりとした作りになっています。また施設内も安全面・衛生面にも配慮した作りとなっております。職員も常勤で日中は、3名配置しており入居者と職員が個々で様々な対応が行える人員配置となっております。また、地域とのつながりを大切にし、地域の方が気軽に相談ができるよう地域へのサロンへの参加・施設の見学等の声掛けを行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

評価に行く度に進化している。コロナ禍が、長期に及んで早や3年だが、物事を真摯に考え、何かを実践しようと試みている。特に、外部との交流が薄くなり易いので、近隣の方へのさりげない声掛けや挨拶、運営推進会議の報告や相談を手渡し、細くても繋がりを継続・維持し、将来太い関係となるよう実践している。職員に対しても半年に1回面談をして、尊敬を持って個人評価から「本人はどうなりたいのか」「どうしたいのか」の意向を確認して、何でも話せる関係を築いている。「様々な職員の気持ちや価値観」を察し、言い回しを考えながら、急がずじっくりと対応している。職場が楽しいと思えるようにと、施設長は常に奥底まで気づかい、管理者も納得できる様に育成に努めている。食の熟成[食品を寝かせて美味しくすること]と同じように職員の熟成を待って「待つ介護」、生きがい[役割]の探求に手掛けている。元気よく、笑顔を持って我々を見送ってくれ、生きがいを感じた施設であった。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時に理念の唱和を行い、入居者が役割や生きがいを持って生活できるように日々考え実践している。	施設とグループの理念が事務所に掲示されている。前理事長から「生きがい」の大切さを学び、職員は「入居者の生きがいとは何だろうか？」と日々考えながら行動し、実践できるようにしている。	コロナ終焉に向けて、玄関にも理念を大きく掲示して、外部にも知って頂いてはいいかがでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動・行事等にも積極的に参加している。	町内会には加入している。地域の公園の草刈りや溝掃除は、継続的に取り組んでいる。施設内の自販機に学生が訪れ、その際に挨拶を交わす関係ができ、隣接する畑の人から野菜を頂いたこともあるくらい親しい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けて他の地域の事業所と合同で勉強会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域行事の参加、ボランティアの依頼、施設に対しての要望を聞きいい関係が作れている。	現在は、書面にて開催している。施設長が書類を直接持って行くことで、何かあれば意見を聞きやすい体制が構築されている。包括よりボランティアの受け入れがあったが、コロナ禍により断念している。以前通りに再開できることを心待ちにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内会長・民生委員・近隣との連携も図り、地域行事への参加を行っている。	年3回ある奉仕活動には毎回参加している。窓口は施設長で、市町村の担当者とは、コロナ禍でも顔を合わせて話をするので縁が深まり、何でも話せる関係が構築されている。	施設長だけではなく、時には管理者にも一緒に足を運んでみられてはいいかがでしょうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回研修を行っている。身体拘束ゼロを目標にしケアを行っている。	拘束委員会は3ヶ月毎。研修は年2回。利用者の安全面を考えて、車椅子の座らせ方から学び直し、尊厳を縛ることをしないように配慮しながら、日々の介護の中で実践している。スピーチロックについての研修も開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回研修を行っている。また、虐待等の報道があった際にはその都度職員に周知徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い職員が学ぶ機会を設けている。必要に応じ支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約時は、家族が納得できるよう丁寧に説明を行い、今後についての相談等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡時や入居者の持ち物をお持ちになる際などに最近の様子を伝えながら意見・要望をお聞きして対応している。	家族の方が日用品などを持って来てくれた際に話をしている。窓越し面会を実施しているので、家族の方が会いに来てくれる。県外の方とは電話にて話をしている。施設側からは、良いことも悪いことも含めて話をすることで、要望を聞き易くどんなことでも話ができ、安心して頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回リーダー会議を設けている。ユニット会議も月に1回行っている。	施設長面談を半年に1回実施して、職員の意見を聴取している。担当制を敷いているので、各職員は会議にて話し合いをすることで、意見を反映させている。業務中の雑談からも意見を聴取する場合もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	安定した勤務体制・残業が発生しないよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加の機会を設け、順次交代で研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため外部での関りが難しいため内部での勉強会が中心となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にしっかりと家族等にヒアリングを行い、本人の状態を職員に周知徹底している。入居してから慣れていただくまでは、できる限り寄り添い不安の解消を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できる限り連絡を取り、信頼関係を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族・本人と面接を行い、必要なサービスを見極め、入居後のプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場において、入居者へ役割を感じてもらい共に協力しあえる関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は面会を制限中であり電話・窓越し面会での交流が中心である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会を制限中であり電話・窓越し面会での交流が中心である。	会うことが大切だとの思いから、窓越し面会を実施していて、顔と顔を合わせると何も話さなくても涙する姿があった。月1回の訪問理容の方も馴染みの人となり、会うのが楽しみとなっている。病院受診の際に、「早く帰ろう」という利用者もいて、GHが馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯・掃除・食事の準備等、入居者同士が関わり合える機会を設定している。また、食事の際の関の位置等も工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡をとり、家族との関係を継続できるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、本人の希望・要望に沿えるよう努力している。	本人から意見を聞くことが多いが、言葉を発しない方からは、普段の表情や何気ない一言を聞き逃さないように工夫したり、家族からの意見を聞いたりしている。咀嚼の程度や温度調整をしてあげることによって利用者が快適に生活できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にしっかりと家族等にヒアリングを行い、入居者の状態を職員に周知徹底している。また、家族、知り合いの面会時にも過去の生活についてヒアリングを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活を考え、役割りを設定し現状把握に努めている。健康面についても日々バイタルチェックを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ユニット会議を開催している。また、3か月に1回介護計画の見直しを行っている。	入居時に暫定プランを作成し、その後は3ヶ月毎に見直ししている。何かあればその都度見直ししている。入居後に皮膚の状態が綺麗になった事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一時間ごとの個別記録を作成している。食事量、健康チェックも含めてその日だけで判断するのではなく一定期間の様子を確認しながら介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない場合、受診に職員が付き添うなどできる限り柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や歯科医による訪問診療等を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が週2回来所するので診察日以外の入居者でも気になることがあれば情報共有を行っている。また、家族が希望する医療機関への受診も行っている。	かかりつけ医が数名おられ、週2回の訪問。訪問診療が週4～5回来るので安心できる。歯科衛生士も週1回の訪問があり、口腔ケアを実施してくれる。グループ内の病棟に連絡をすれば、24時間体制で対応してくれ、看護師も常駐しているので、安心感が高い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師を配置している。また、訪問看護との連携を図り、24時間の相談できる環境を作っている。週に1回訪問看護が状態の確認に来所し、職員から聞き取りを行い、個人記録を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に訪問をし状態の把握を行うようにしている。また、看護師・ソーシャルワーカーと連携を図り、情報入手を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に意向を伺い確認をとっている。主治医との連携を図り、家族に対し今後の方針について段階的に説明を行っている。	ターミナルは実施しており、ドクターや家族の意見を尊重した上で、今年度は1名看取りを行った。デスカンファレンスをユニット会議にて開催し、意見を出し合うことで、次に活かそうと取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応ができるようマニュアルを作成している。また、緊急時の対応についての研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日夜の避難訓練・消火器の使用した訓練を実施している。	年2回昼夜想定で火災と非常事態に備えた訓練を実施した。玄関にハザードマップと避難経路、事務所に連絡網を掲示している。備蓄は水を3日分、倉庫に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を損なわない言葉かけ・対応を心掛けている。年に1回接遇に関する研修を行っている。	呼称は、苗字に「さん」付けで呼んでいる。居室に入る時は、必ずノックをしてから入室するようにしている。プライバシーを確保するために、インシヤルで表記する工夫が所々に見られた。排泄失敗時には小さい声で囁くことで、自尊心を傷つけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄・入浴の誘導時には、利用者の意向を尋ね、できる範囲内で意向に沿えるよう心掛けている。掃除・洗濯・家事についても本人の意向に沿って行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニット内で基本的な一日の流れは設定しているが入居者の意向に沿って対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向に沿って対応している。また、入居者によっては化粧をされるので化粧品を揃えるなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人一人が役割を持ち、食事の準備を行っている。おでん作りでは具を入居者から聞き取りを行いメニュー表を作って選択できるような工夫をした。	食事は三食ケイタリングだが、ご飯と味噌汁は施設で作れ、盛りつけは利用者と一緒にしている。使い慣れた、茶碗、湯呑、お箸を使用している。誕生日には、手作りケーキを振舞うことが利用者に好評。行事の時には、お弁当にして雰囲気も味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態は個々の状態により柔軟な対応を心掛けている。食欲減退時などは栄養補助食品も活用し低栄養にならないよう配慮。水分量や食事量は毎回チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。。また、希望により訪問歯科の往診を受け、口腔ケアの指導をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを観察し、尿意・便意のない方には、時間を見計らってさりげなく誘導するようにしている。できる限りトイレでの排泄を維持できるように支援している。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。排泄チェック表を活用することで、トイレへスムーズに誘導できるように工夫している。排泄失敗時には小さい声で囁くことで、自尊心を傷つけないように配慮している。布パンツの方も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて把握し、牛乳、飲料等を提供したり、体操を行うなど便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本日程はあるが、個々の希望や体調、気分に合わせて入浴を行っている。また準備などはスタッフが付添い自分で行える様支援している。	週2回提供で、一人ひとりお湯を入れ替えている。入浴を嫌がる方には、人や日時を変えたり、「薬を塗ろう～」「服を脱いだからついでに入ろう」などと言葉かけをしたりして誘導している。季節湯としてゆず湯の提供もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ある程度の決められているものはあるが基本的には希望に添える形での生活を心掛けている。また、本人の状態に合わせて休むことを勧めたり、身体を動かしていただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理、内容や副作用の説明書はすぐに見られる場所に置いてあり、すぐに確認出来るようにしている。訪問診察時には入居者様の体調や様子を報告。医師に相談し投薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴を活かし一人一人に役割の設定し洗濯・掃除・食事準備等を行っている。畑や散歩を行うなど気分転換につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩等希望に応じて支援している。コロナ前は、家族との外食など出かけていた。	広大な敷地内や裏の畑への散歩がストレスの解消となっている。遠出が出来ないので、ラジオ体操や敷地内での食事をすることで、職員・利用者のフラストレーション解消に役立ち、健康に向けて取り組んでいる。散歩が出来ないときは、コミュニケーションを取り、楽しい一日ができるよう、気づかいはしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は、お小遣い程度を所持されて、買い物支援で欲しい物を自由に行って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に電話する方や、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所や部屋の入り口に名札をつけて分かるように支援しています。リビング内の壁には季節感を感じて頂く為おりがみ等使い飾り物を掛けるようにしている。	テレビを観て過ごしていた利用者が、笑顔で評価員を出迎えてくれ、いろいろな話を投げかけてくれた。利用者はティータイムを楽しみながら雑誌を読んだり、食器拭きを手伝ったりして、自分の時間をゆったりと過ごしている姿を目の当たりにした。落ち着いた雰囲気、職員との語りも、のどかであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりとした空間の中でソファーに座りテレビを見たり、新聞を読んだり、編み物をするなど個々が思い思いに過ごせる環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談し居室は入居前の家庭の家具や寝具を持ってきて頂き住み慣れた環境作りを提供する為、協力して頂いている。	備え付けは、ベット、エアコン、カーテン、タンス、洗面台。部屋は毎日清掃されていて、綺麗に保たれていた。馴染みの鏡台やチェアを持ち込み、窓の外の田園風景をずっと眺めながら物思いにふけ、ゆったりとした時間が流れ、自分らしく過ごせる快適な空間であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差がなく、手すりを配置し安全に過ごしていただけるようにしている。また、トイレ、浴室、居室にはわかるように表示を行っている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101727		
法人名	社会福祉法人 義風会		
事業所名	グループホーム桃丘 (マスカット)		
所在地	岡山市北区芳賀2390		
自己評価作成日	令和 4年 1月 14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101727-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101727-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4年 2月 4日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H27. 3月に開設した施設になります。建物は平屋で広い駐車場、畑もありゆったりとした作りになっています。また施設内も安全面・衛生面にも配慮した作りとなっております。職員も常勤で日中は、3名配置しており入居者と職員が個々で様々な対応が行える人員配置となっております。また、地域とのつながりを大切にし、地域の方が気軽に相談ができるよう地域へのサロンへの参加・施設の見学等の声掛けを行っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

評価に行く度に進化している。コロナ禍が、長期に及んで早や3年だが、物事を真摯に考え、何かを実践しようと試みている。特に、外部との交流が薄くなり易いので、近隣の方へのさりげない声掛けや挨拶、運営推進会議の報告や相談を手渡し、細くても繋がりを継続・維持し、将来太い関係となるよう実践している。職員に対しても半年に1回面談をして、尊敬を持って個人評価から「本人はどうなりたいのか」「どうしたいのか」の意向を確認して、何でも話せる関係を築いている。「様々な職員の気持ちや価値観」を察し、言い回しを考えながら、急がずじっくりと対応している。職場が楽しいと思えるようにと、施設長は常に奥底まで気づかい、管理者も納得できる様に育成に努めている。食の熟成[食品を寝かせて美味しくすること]と同じように職員の熟成を待って「待つ介護」、生きがい[役割]の探求に手掛けている。元気よく、笑顔を持って我々を見送ってくれ、生きがいを感じた施設であった。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時に理念の唱和を行い、入居者が役割や生きがいを持って生活できるように日々考え実践している。	施設とグループの理念が事務所に掲示されている。前理事長から「生きがい」の大切さを学び、職員は「入居者の生きがいとは何だろうか？」と日々考えながら行動し、実践できるようにしている。	コロナ終焉に向けて、玄関にも理念を大きく掲示して、外部にも知って頂いてはいいかがでしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動・行事等にも積極的に参加している。	町内会には加入している。地域の公園の草刈りや溝掃除は、継続的に取り組んでいる。施設内の自販機に学生が訪れ、その際に挨拶を交わす関係ができ、隣接する畑の人から野菜を頂いたこともあるくらい親しい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けて他の地域の事業所と合同で勉強会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域行事の参加、ボランティアの依頼、施設に対しての要望を聞きいい関係が作れている。	現在は、書面にて開催している。施設長が書類を直接持って行くことで、何かあれば意見を聞きやすい体制が構築されている。包括よりボランティアの受け入れがあったが、コロナ禍により断念している。以前通りに再開できることを心待ちにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内会長・民生委員・近隣との連携も図り、地域行事への参加を行っている。	年3回ある奉仕活動には毎回参加している。窓口は施設長で、市町村の担当者とは、コロナ禍でも顔を合わせて話をするので縁が深まり、何でも話せる関係が構築されている。	施設長だけではなく、時には管理者にも一緒に足を運んでみられてはいいかがでしょうか？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回研修を行っている。身体拘束ゼロを目標にしケアを行っている。	拘束委員会は3ヶ月毎。研修は年2回。利用者の安全面を考えて、車椅子の座らせ方から学び直し、尊厳を縛ることをしないように配慮しながら、日々の介護の中で実践している。スピーチロックについての研修も開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回研修を行っている。また、虐待等の報道があった際にはその都度職員に周知徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い職員が学ぶ機会を設けている。必要に応じ支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	解約時は、家族が納得できるよう丁寧に説明を行い、今後についての相談等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡時や入居者の持ち物をお持ちになる際などに最近の様子を伝えながら意見・要望をお聞きして対応している。	家族の方が日用品などを持って来てくれた際に話をしている。窓越し面会を実施しているので、家族の方が会いに来てくれる。県外の方とは電話にて話をしている。施設側からは、良いことも悪いことも含めて話をすることで、要望を聞き易くどんなことでも話ができ、安心して頂いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回リーダー会議を設けている。ユニット会議も月に1回行っている。	施設長面談を半年に1回実施して、職員の意見を聴取している。担当制を敷いているので、各職員は会議にて話し合いをすることで、意見を反映させている。業務中の雑談からも意見を聴取する場合もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	安定した勤務体制・残業が発生しないよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加の機会を設け、順次交代で研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため外部での関りが難しいため内部での勉強会が中心となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にしっかりと家族等にヒアリングを行い、本人の状態を職員に周知徹底している。入居してから慣れていただくまでは、できる限り寄り添い不安の解消を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できる限り連絡を取り、信頼関係を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族・本人と面接を行い、必要なサービスを見極め、入居後のプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場において、入居者へ役割を感じてもらい共に協力しあえる関係づくりを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在は面会を制限中であり電話・窓越し面会での交流が中心である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会を制限中であり電話・窓越し面会での交流が中心である。	会うことが大切だとの思いから、窓越し面会を実施していて、顔と顔を合わせると何も話さなくても涙する姿があった。月1回の訪問理容の方も馴染みの人となり、会うのが楽しみとなっている。病院受診の際に、「早く帰ろう」という利用者もいて、GHが馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯・掃除・食事の準備等、入居者同士が関わり合える機会を設定している。また、食事の際の関の位置等も工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡をとり、家族との関係を継続できるよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、本人の希望・要望に沿えるよう努力している。	本人から意見を聞くことが多いが、言葉を発しない方からは、普段の表情や何気ない一言を聞き逃さないように工夫したり、家族からの意見を聞いたりしている。咀嚼の程度や温度調整をしてあげることによって利用者が快適に生活できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にしっかりと家族等にヒアリングを行い、入居者の状態を職員に周知徹底している。また、家族、知り合いの面会時にも過去の生活についてヒアリングを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の生活を考え、役割りを設定し現状把握に努めている。健康面についても日々バイタルチェックを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ユニット会議を開催している。また、3か月に1回介護計画の見直しを行っている。	入居時に暫定プランを作成し、その後は3ヶ月毎に見直ししている。何かあればその都度見直ししている。入居後に皮膚の状態が綺麗になった事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日一時間ごとの個別記録を作成している。食事量、健康チェックも含めてその日だけで判断するのではなく一定期間の様子を確認しながら介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が対応できない場合、受診に職員が付き添うなどできる限り柔軟な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や歯科医による訪問診療等を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が週2回来所するので診察日以外の入居者でも気になることがあれば情報共有を行っている。また、家族が希望する医療機関への受診も行っている。	かかりつけ医が数名おられ、週2回の訪問。訪問診療が週4～5回来るので安心できる。歯科衛生士も週1回の訪問があり、口腔ケアを実施してくれる。グループ内の病棟に連絡をすれば、24時間体制で対応してくれ、看護師も常駐しているので、安心感が高い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師を配置している。また、訪問看護との連携を図り、24時間の相談できる環境を作っている。週に1回訪問看護が状態の確認に来所し、職員から聞き取りを行い、個人記録を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に訪問をし状態の把握を行うようになっている。また、看護師・ソーシャルワーカーと連携を図り、情報入手を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族に意向を伺い確認をとっている。主治医との連携を図り、家族に対し今後の方針について段階的に説明を行っている。	ターミナルは実施しており、ドクターや家族の意見を尊重した上で、今年度は1名看取りを行った。デスカンファレンスをユニット会議にて開催し、意見を出し合うことで、次に活かそうと取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応ができるようマニュアルを作成している。また、緊急時の対応についての研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日夜の避難訓練・消火器の使用した訓練を実施している。	年2回昼夜想定で火災と非常事態に備えた訓練を実施した。玄関にハザードマップと避難経路、事務所に連絡網を掲示している。備蓄は水を3日分、倉庫に保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を損なわない言葉かけ・対応を心掛けている。年に1回接遇に関する研修を行っている。	呼称は、苗字に「さん」付けで呼んでいる。居室に入る時は、必ずノックをしてから入室するようにしている。プライバシーを確保するために、インシヤルで表記する工夫が所々に見られた。排泄失敗時には小さい声で囁くことで、自尊心を傷つけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄・入浴の誘導時には、利用者の意向を尋ね、できる範囲内で意向に沿えるよう心掛けている。掃除・洗濯・家事についても本人の意向に沿って行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニット内で基本的な一日の流れは設定しているが入居者の意向に沿って対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向に沿って対応している。また、入居者によっては化粧をされるので化粧品を揃えるなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人一人が役割を持ち、食事の準備を行っている。おでん作りでは具を入居者から聞き取りを行いメニュー表を作って選択できるような工夫をした。	食事は三食ケイタリングだが、ご飯と味噌汁は施設で作れ、盛りつけは利用者と一緒にしている。使い慣れた、茶碗、湯呑、お箸を使用している。誕生日には、手作りケーキを振舞うことが利用者に好評。行事の時には、お弁当にして雰囲気も味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態は個々の状態により柔軟な対応を心掛けている。食欲減退時などは栄養補助食品も活用し低栄養にならないよう配慮。水分量や食事量は毎回チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。。また、希望により訪問歯科の往診を受け、口腔ケアの指導をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを観察し、尿意・便意のない方には、時間を見計らってさりげなく誘導するようにしている。できる限りトイレでの排泄を維持できるように支援している。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。排泄チェック表を活用することで、トイレへスムーズに誘導できるように工夫している。排泄失敗時には小さい声で囁くことで、自尊心を傷つけないように配慮している。布パンツの方も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて把握し、牛乳、飲料等を提供したり、体操を行うなど便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本日程はあるが、個々の希望や体調、気分に合わせて入浴を行っている。また準備などはスタッフが付添い自分で行える様支援している。	週2回提供で、一人ひとりお湯を入れ替えている。入浴を嫌がる方には、人や日時を変えたり、「薬を塗ろう〜」「服を脱いだからついでに入ろう」などと言葉かけをしたりして誘導している。季節湯としてゆず湯の提供もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ある程度の決められているものはあるが基本的には希望に添える形での生活を心掛けている。また、本人の状態に合わせて休むことを勧めたり、身体を動かしていただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理、内容や副作用の説明書はすぐに見られる場所に置いてあり、すぐに確認出来るようにしている。訪問診察時には入居者様の体調や様子を報告。医師に相談し投薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の生活歴を活かし一人一人に役割の設定し洗濯・掃除・食事準備等を行っている。畑や散歩を行うなど気分転換につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩等希望に応じて支援している。コロナ前は、家族との外食など出かけていた。	広大な敷地内や裏の畑への散歩がストレスの解消となっている。遠出が出来ないので、ラジオ体操や敷地内での食事をすることで、職員・利用者のフラストレーション解消に役立ち、健康に向けて取り組んでいる。散歩が出来ないときは、コミュニケーションを取り、楽しい一日ができるよう、気づかいはしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は、お小遣い程度を所持されて、買い物支援で欲しい物を自由に行って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様に電話する方や、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所や部屋の入り口に名札をつけて分かるように支援しています。リビング内の壁には季節感を感じて頂く為おりがみ等使い飾り物を掛けるようにしている。	テレビを観て過ごしていた利用者が、笑顔で評価員を出迎えてくれ、いろいろな話を投げかけてくれた。利用者はティータイムを楽しみながら雑誌を読んだり、食器拭きを手伝ったりして、自分の時間をゆったりと過ごしている姿を目の当たりにした。落ち着いた雰囲気、職員との語りも、のどかであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりとした空間の中でソファーに座りテレビを見たり、新聞を読んだり、編み物をするなど個々が思い思いに過ごせる環境づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様と相談し居室は入居前の家庭の家具や寝具を持ってきて頂き住み慣れた環境作りを提供する為、協力して頂いている。	備え付けは、ベット、エアコン、カーテン、タンス、洗面台。部屋は毎日清掃されていて、綺麗に保たれていた。馴染みの鏡台やチェアを持ち込み、窓の外の田園風景をずっと眺めながら物思いにふけ、ゆったりとした時間が流れ、自分らしく過ごせる快適な空間であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は段差がなく、手すりを配置し安全に過ごしていただけるようにしている。また、トイレ、浴室、居室にはわかるように表示を行っている。		